スズメ蜂に刺されて、しまった

今野 英山

毎年10月になると山形県高畠町の稲子山というところにマツタケを採りに行く。すでに一昨年になるのだが、その山で事件は起こった。

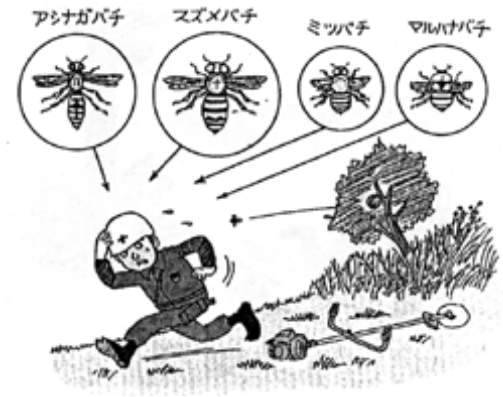
早朝5時45分に松茸山の駐車場から懐中電灯を持って出発した。いつもの処から登りはじめて30分も経ったであろうか、空が白み漸く足元が見え始めたころに早速大ぶりのマツタケを発見した。

これは幸先がいい。さらに登ってまた一本、暫くしてから今度は二本並んだマツタケにも出あった。事前の情報でも今年はよく採れるとのことだったので、うれしさを隠しきれないで歩き回った。実は毎年この山に来ていたのだが、今まで一本採れればいいほうで、全く採れないときも多かったのである。

登り始めて2時間半経った頃、少し休憩して立ち上がると大きな黄色い蜂が頭の上を羽音をたてながら旋回している。どうみてもスズメ蜂だ。これは逃げるしかないと思って、周りを見渡すとすぐ下に這松の隙間がある。そこに飛び込もうと思ってまずまとわりつく蜂をタオルで払うと同時にその隙間に飛び降りた。

これがいけなかった。飛び降りた瞬間に右胸に鋭い痛みを感じた。やられたと思ったが後の祭り。服の上から乳首のまわりに3カ所も刺されている。ほんの一瞬の間にである。生まれて初めての経験なので、どうなってしまうのか見当もつかない。とにかく下まで降りようと山をがむしゃらに駆け降りた。

駆け降りながら胸の痛みはどんどんひどくなる。右胸全体が腫れ上がって疼いている。それでも一気に下の林道まで下りきった。ちなみに収穫したマツタケは蜂に刺された時点で既にリュックに入れていたので無事である。そんなことを考える余裕があったので、あとで考えてみれば大した話ではなかったのかもしれない。



林材業労災防止協会のHPより

林道に出てまず携帯電話で救急車を呼んだ。幸い電波が通じたのがよかった。そのまま管理人のいる駐車場までたどりつき、そこで針が残っているとやっかいなので簡単な手当てをしてもらった。上半身の半分は真赤に腫れていた。

救急車は間もなく到着し、高畠町の大きな病院で手当てを受けることになった。蜂によるショック状態に陥ることが一番怖いのだそうで、点滴をうけながら血圧や心電図を取りつづける。血液の成分もチェックする。この病院はスズメ蜂の被害は時々あるので慣れて

いるようなのでひとまず安心であった。

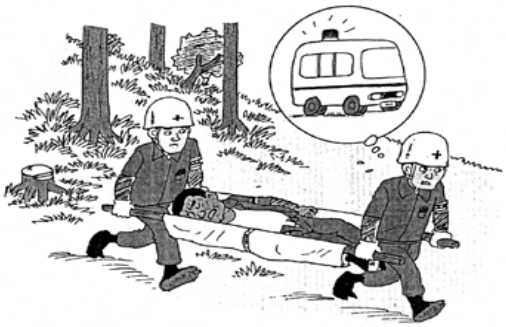
間もなく、地元の保健所から状況確認のヒアリングがあった。今後の注意喚起のためにも何時どこで被害にあったかの情報が必要なのである。その担当者が現地を一応確認するというので、ついでに置きっぱなしにしておいた車を病院まで持ってきてくれるように頼んだ。

２時間ほど経過を見た上で、問題はなさそうだということで解放された。この時に医者からは「２度目が危険です。蜂による抗体ができると、次に刺された時に抗体によって過剰反応してアナフィラキシーショックというものを起こす可能性があります。これからは蜂に刺されないようにしてください」というではないか。

これではもう二度と山に行くなと言われたも同然だ。刺された時の対処法はないのかと尋ねたところ、自分で打つタイプの注射があると言われた。これはいろいろ調べねば安心して山に入ることはできない。そこで実際に調べて実行した結果を以下に書いてみた。

① まず抗体ができたかどうかを専門の機関で調べてみる。抗体を調べることができる医療機関は限られているので、「公益財団法人日本アレルギー協会事務局」に問い合わせ、自分の地域の検査機関を確認する。TEL：03-3222-3437　FAX：03-3222-3438
あるいは「アナフィラキシー医療機関リスト」がＨＰに掲載されているので自分で探す方法もある。
http://www.anaphylaxis.jp/list/index.html#

② 検査機関で抗体チェックを行う。私は柏市在住なので、ＪＲ南柏駅前の「ひろクリニック」を紹介してもらい検査した。検査はスズメバチ、アシナガバチ、マルハナバチ、ミツバチなどの抗体の有無。血液を採取して１週間ほどで結果が出る。



林材業労災防止協会のＨＰより

③ １週間後に血液の検査結果を確認し、念のため蜂毒による反応検査をおこなって抗体の有無を判定する。幸いなことに私は抗体の無いことが判明したので一安心である。

④ もし抗体ができていたらどうするか？抗体がある場合にはアナフィラキシーショックによる血圧低下を起こす恐れがある。抗体があれば全員起こすというわけではないが、可能性があるということだ。いづれにしても蜂に刺されないようにしなければならない。

⑤ それでも運悪く刺された時はどうするか？刺された時の為のアドレナリンの自己注射器（商品名：エピペン®）がある。価格は 12,000 円ほどで医者を通じて入手できる。ただしこの効き目は 15～20 分ほどで、その間は血圧の低下を防ぐことはできるのでその間に救急車を呼ぶなどの処置を行う必要がある。一人で山の中に入った時は意味がないのかもしれない。

⑥ 抗体がないと解った場合はこれからも安全なのか？１回目で抗体ができなかったからと言って２回目以降にできない保証はないそうである。つまりスズ

メバチなどに刺された時はその都度抗体検査を受ける必要があるのだ。

⑦　抗体がないからといって蜂に刺されても安全か？そんなことはない。かなりの痛みがあり、幼児や心臓が弱っていたり、多数の蜂に刺された場合はその毒やショックで死に至ることは当然あり得る。成人でも抗ヒスタミン軟膏などを患部に塗るなどの対処法を施す必要がある。やはり蜂には刺されないことだ。

⑧　ということで蜂に出会った時の対処法を、わが反省を含めて以下に書いてみた。

・蜂は警戒音をたてているので、蜂の音に常に注意してすすむ。蜂のことを忘れ、ヘッドフォンで音楽を聴きながら山に入るのは絶対にダメ。
・音が聞こえたら、その場で行動をやめ、静かに後ずさりをするようにその場を離れる。最近はこれで何回も遭遇しながらも被害を回避している。
・タオルなどで絶対に振り払ってはいけない。
・蜂は天敵である熊のような黒いものに反応するので、黒い服や帽子をさける。
・蜂のスピードは予想以上なので、絶対に逃げたり飛び降りたりはしない。

最後に、以上の経緯をドキュメント風の短歌にしてみた。

＜足もとの暗き朝けに山に入り這ひつつひたすら茸を探す＞
＜次々と松茸四本採りし時いつしか大き蜂（すがる）まつはる＞
＜手拭ひに払ひて傾（なだ）りを飛び降りき雀蜂避くる術（すべ）を知らねば＞
＜一瞬に胸に鋭き痛みあり赤き刺し跡二つも三つも＞
＜やみくもに藪わけ山を駆け降りき刺し跡疼きて腫れゆく中に＞
＜携帯に友は応へずみづからに救急車呼びつつ林道下る＞
＜点滴を受けつつ血圧注視するアナフラキシーショックのなきを願ひて＞
＜「アナフィラキシーショックは二度目が危険です」山はやめよと言はむがごとく＞
＜蜂抗体の検査ことなし晴れてまた山に入らむか茸採らむか＞
＜生くるものなべて朽ちゆき土となり美（は）しき菌（きのこ）の胞子飛び交ふ＞

スズメバチと取り合いになったマツタケ